

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 2月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	2271101343
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい
事業所名	グループホームふれあい黄瀬川
所在地 (電話番号)	〒410-0022静岡県沼津市大岡266-9 055-952-8001
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 5人, 非常勤 11人, 常勤換算 14.3人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建て	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (72,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成19年12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 79.1 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共立クリニック 杉山病院 佐野歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年に続き2回目の調査である。前回のパワーが失速することなく更に飛躍していることに目を眩る思いがした。理念を柱にした日々のケア、充実した記録類、家族との信頼関係、職員の育成、地域への貢献等一つ一つが間に合わせでなく確実にに行われている。管理者の強力なリーダーシップもさることながら、法人の持つ企業風土、そして何よりも日々の介護に直接関わる職員の努力が生み出した成果である。家族や地域を巻き込んだの運営推進会議は今後地域の高齢化に伴い重要な場となることが予想される。この状態を維持し続けることは不断の努力が要求されるが、誇りと自信を持って勤しんでいただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で要改善を指摘された項目は2つであった。注意の必要な物の保管に関して危険物チェック表にて確認している。介護計画の細やかな見直しについて、毎月のミーティングで状況の変化を話し合い、利用者や家族の意見も取り入れて随時に見直している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票記入に当たっては各ユニットごとに全員で話し合いユニットリーダーが纏めた。グループホームに求められていることを確認し振り返りを行っている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議2年目の取り組みとして、従来テーマに沿った話し合いに加え認知症相談会を開催している。開催曜日と時間を固定せず全ての家族が参加できるよう配慮し、老人会や地域へも呼びかけて毎回数十名の参加がある。家族のホームにたどり着くまでの思いや体験談、認知症についての勉強、更に地域の方からの家族についての相談など活発な意見交換がされ、運営推進会議の趣旨を満たして余りある有意義な活動に発展している。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2ヶ月に1回開催される家族会を始め、家族がホームを訪れる機会は多く、相談や意見、希望等気軽に申し出ていただくよう促している。いただいた意見は対応できるものについては速やかに対処し、職員で話し合うことが必要な事柄についてはミーティングで検討している。家族からは対応が早い、意見交換が出来ている等の声があった。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会が協力的で、ホームから発信の回覧板も巡回している。介護に関する関心が高く行事や運営推進会議への参加も多い。利用者は地域の清掃活動や防災訓練に参加し地域住民としての役割を担っている。婦人会や民生委員を対象に公民館で認知症の勉強会を開いたり、地域のお年寄りを保護したりと地域貢献の機会もある。近隣やボランティアの協力も多く円滑な交流が図られている。今後、非常時に協力を仰ぐ場合を想定して、ホームの防災訓練への参加をお願いするよう取り組またい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念「笑顔がいっぱい、なじみの我が家」には＊笑顔の絶えない雰囲気と地域の中で住みやすい環境づくりに努めます＊の文言を加えて利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくという職員の決意を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や会議で話し合い、常に理念を念頭に置いている。毎日9名の利用者の笑顔を見て帰ることを自身に課したり、地域での交流を楽しめるよう外出や散歩の機会を作り出す等理念の実践に向けて多面的な取り組みが見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会、隣人の協力の中で、ホームからも積極的に地域にアプローチして認知症相談会やホーム行事への参加を回覧板で呼びかけている。地域の重要性を利用者家族にも説明し理解していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審は2回目である。項目一つ一つに正面から取り組んでおり、評価の為でなく日常から問題意識を持って計画的に取り組む姿勢が随所に見られた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期的に開催されている。次回の日程とテーマの決定、家族や地域への広報、原稿準備や雰囲気作り、アンケートの実施、報告まで仕組みが出来上がっている。2年目の取り組みとして認知症相談会を開催、家族や地域住民が介護に関して心を開いて話し合える場となっている。		

静岡県グループホームふれあい黄瀬川

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の広報に「ふれあい黄瀬川」を取り上げていただき、反響は大きかった。グループホームにおける介護食講座の開催について市へ要請し、今年度中の開催が決まるなどグループホーム全体のサービス向上に繋がる働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月お便りを発行して1ヶ月の報告や予定、新しい職員の紹介など掲載している。個々の利用者の近況を記入する欄も設けて家族の安心を引き出している。個人情報に関する承諾を得た上でブログも折々に更新されて遠くの親戚にもタイムリーな報告となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お便りに問い合わせや意見等気軽に申し出ていただくよう促す言葉を添えたり、ご意見受付BOXを設けている。いただいた意見はお便りに掲載して対応や状況説明等明らかにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動を最小限に抑えるよう法人との連携により研修の機会作りや環境作りなど図っている。職員のレベルアップのための異動も利用者や家族へ説明し理解していただいている。職員が定着しているので、止むを得ない職員の交代には慣れた職員が関わられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用職員は社内研修が必須であり、以後も先輩職員が指導育成している。外部研修、法人の社内研修、内部研修等職員個々に相応しい研修が計画されて研修後は全職員が報告書を作成、より良いケアに向けて反省点を含め振り返っている。資格取得の勉強会も行われ多くの職員が挑戦している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設と利用者も含めた交流も多く職員には各ホームの特色を見学する機会となっている。運営推進会議には各ホームの代表が必ず出席してサービスの向上に繋げるよう取り組んでいる。また、勉強会開催に向けて市に働きかけ地域グループホーム全体の質の向上にも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者にホームを見てもらい職員や利用者の雰囲気を感じていただいたり、職員が利用希望者宅を訪問して現在の状況を確認、本人を理解し尊重した対応が出来るように努めている。半日の体験利用で徐々に慣れていただくこともある。また、既利用者との関係も重視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は無理の無い範囲で出来ることを行っており、洗濯物干しや掃除、食事の準備や片付け、来客への茶の接待と前面に出て役割を果たしている。利用者同士の支えあいに職員が助けられることもあり、若い職員は利用者の励ましの中で育てられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向に沿った支援として誕生日企画は利用者の希望を実現している。希望を述べる利用者を見て自分の意見を表現することが多くなった利用者もいる。ケアカンファレンスやサービス担当者会議で利用者一人ひとりの状況把握や職員間での気付きを共有し日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、利用者や家族の要望を基にアセスメントを実施、サービス担当者会議で医師・看護師などの意見を取り入れながら介護計画を作成している。家族にもサービス担当者会議や医師の検診に出席して頂き、意見や要望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスや日々のミーティング、サービス担当者会議で利用者ごとの状況変化や、ケアの課題などが話し合わせ、随時介護計画の見直しを行っている。医師の検診時に家族の同席を促して説明・同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ病院受診の支援の他、系列3ホームとのイベント交流、運営推進会議で地域住民への認知症相談会を開催するなど積極的にホームの多機能性を活かした取組みを行っている。利用者の娘さんが嫁ぐ前に一緒に過ごせるよう宿泊にも対応した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等と話し合い、かかりつけ医からホーム提携医療機関へ移行し、適切な医療が受けられるように支援している。提携医より月2回の訪問診療と24時間の連携体制、グループ内看護師による毎日の巡回も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応の確認書がホーム受付に置かれている。利用者や家族との十分な話し合いのもとに同意書を得ている。ホーム・医師・看護師との連携の対応システムが作られ、状態の変化があるごとに、家族の気持ちや本人の思いを汲み取り職員全員で方針を共有している。すでに3名の看取り経験を持ち大変ながらも職員の介護の自信につながっているとのことであった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの状況に合わせた対応をしており、プライバシーを損ねるような言葉かけに気付いたときには職員同士注意もしている。個人情報に関しては、ホーム便りやブログへの利用者写真掲載の承諾を得ており、申し送りも利用者の前で行わない配慮をしている。	○	親しみを籠めた言葉遣いはややもすると周りに不快感を与えることがあるので、馴れ合いになってないか時に振り返りが求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、押し付けのケアではなく一人ひとりの状態や思いに配慮し、日々、体操や掃除、買い物、散歩等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者にも聞き、季節の食材を取り入れている。調理、配膳、片付け等利用者とともにいき、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切に行っている。利用者の活躍は職員と見間違うほどであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本に、利用者の希望にあわせた入浴対応を行っている。失禁などの場合も、清潔保持のため、随時入浴していただくなど配慮している。また公共の温泉を利用したり数種類の入浴剤も楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の要望、日常の何気ない対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、その人の出来ることを一緒に行えるよう支援している。毎月の様々な行事を楽しみ、誕生日企画の希望でピアノコンサートに出かけたり、クラス会に参加するなど個々に適った楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や、本人の気分、希望に応じて散歩や買い物などの支援している。ホーム玄関前の自動販売機での飲料買い物や日帰り旅行、家族を含めた1泊旅行、キグレサーカス見物など戸外へ出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、日中は鍵を掛けず、見守ることを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員を中心に年2回の防災・避難訓練を実施している。グループ全体の防災委員会も2ヶ月に1度開催され細部に渡り検討され訓練時の反省を基に具体的な実施要綱を作っている。防災グッズや非常食・水などの備蓄もある。	○	運営推進会議が活発に行われているので、地域と共同の防災訓練や夜間災害時の協力依頼を行うなど、更なる地域との協力関係作りにも取り組み願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスガイドを参考に、一人ひとりの状態に合わせ塩分・糖分の調整をしている。カロリー制限のある利用者には献立や量で相応しい栄養摂取・水分摂取が出来るよう支援されている。管理者自ら介護食研修講座を受講しホーム内への導入取組みも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りの花壇は季節の花が利用者により植えられ、ホーム内は掃除が行き届き快適で落ち着いた環境が整えられている。居室や廊下・居間への段差も無く、要所には手すりも取り付けられている。日当たりの良い居間ではソファや畳の間があり布団を敷いて話し声を聞きながら昼寝をしている利用者も見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具・鏡台・化粧道具などが持ち込まれ、家族の写真や花、孫からのプレゼントなども飾られ利用者の個性や好みに合わせた居室作りをしている。		